

## 水産業再生プロジェクト

【442(433)百万円】

### 対策のポイント

沿岸漁場における生産の回復・安定化のため、赤潮等の早期発生予測技術、天然資源に依存しない養殖生産技術、沿岸資源の回復技術を開発します。

### <背景/課題>

- ・我が国の水産業の主要分野である沿岸漁業と養殖業においては、①赤潮などの環境由来の漁業被害の低減、②天然稚魚へ依存しない養殖業の確立、③長期的に減少傾向にある沿岸漁業資源の回復、が再生の鍵となっています。
- ・これらの課題を解決するためには、海洋環境、養殖、資源・生態等、水産分野の研究勢力を集結した、包括的な技術開発に取り組む必要があります。

### 政策目標

沿岸漁業資源の回復と養殖生産の安定化を実現し、水産基本計画における漁業生産目標の達成に寄与  
(409万トン(22年度)→449万トン(34年度))

### <主な内容>

#### 1. 海洋微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発

赤潮等の発生と海洋微生物相の関係を解明し、これらの微生物相の解析による漁業被害の発生予測、抑制技術を開発します。

#### 2. 天然資源に依存しない持続的な養殖生産技術の開発

天然稚魚に依存しているウナギ、クロマグロ、ブリ類について、親魚の成熟・産卵を制御し人工稚魚を安定的に供給する技術、稚魚の生残率を向上させるとともに人工飼料などにより低コストで大量飼育する技術を開発します。

#### 3. 生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発

減少を続けている主要な沿岸資源(アサリ、アワビ、カレイ類等)について、先端的な生物追跡技術を活用し、幼生から成体に至る一生の生息環境(生態系ネットワーク)を解明し、その修復による自律的な資源回復技術を開発します。

補助率：定額  
事業実施主体：民間団体等

お問い合わせ先：

農林水産技術会議事務局研究開発官(環境)(03-6744-2216(直))

# 水産業再生プロジェクト

## 背景

- 我が国の沿岸漁業と養殖業は水産業の主要分野。
- 沿岸漁業と養殖業では、①赤潮など環境由来の漁業被害、②養殖業の天然稚魚への依存、③天然資源の長期的な減少、の解決が再生の鍵。
- これらの課題を解決するため、海洋環境、養殖、資源・生態等、水産分野における研究勢力を集結した包括的な技術開発が必要。

	漁業全体	沿岸+養殖(全体比)
H22生産量(万トン)	532	240(45%)
H18生産額(兆円)	1.6	1.0(62%)
H20経営体数(千団体)	122	113(93%)

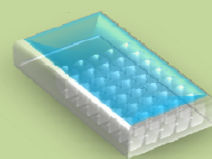
## 研究内容

### 【海洋環境】 海洋微生物解析による沿岸漁業被害の予測・抑制技術の開発

- 網羅的なDNA解析により赤潮等の発生と海洋微生物群の関係を解明



- 特定微生物を簡易検出できるDNAチップを搭載したモニタリングシステムを開発



### 【養殖】 天然資源に依存しない持続的な養殖生産技術の開発

- 低コスト・大量生産技術の開発



シラスウナギ1万尾生産

- 高品質な養殖用原魚の供給技術開発



クマガロ稚魚10万尾供給

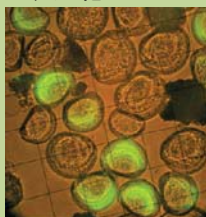
- 成熟産卵のコントロール技術開発



ブリ稚魚の供給を3ヶ月早期化

### 【資源・生態】 生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発

- ネットワークの実証とモデル化



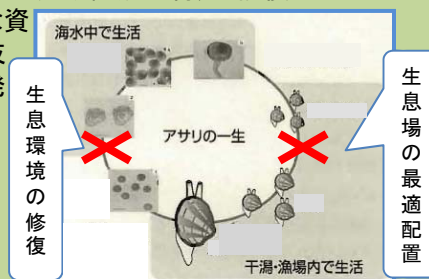
先端技術による生物追跡

- 優良な生息場所の環境構造解明



自然状態でも資源が維持される干潟

- ネットワーク分断箇所の特定・修復による自律的な資源回復技術の開発



## 到達目標

1. 赤潮発生を3日程度早く予測し、赤潮被害額を50%以上低減する技術を開発(H27年度)
2. 低コストで高品質な養殖用人工稚魚を安定的に大量生産する技術を開発(H28年度)
3. 減少を続ける沿岸漁業資源の生産量を増加に導く技術を開発(H29年度)

## アウトカム目標

沿岸漁業資源の回復と養殖生産の安定化を実現し、水産基本計画における漁業生産目標の達成に寄与(H22年度の409万トン(H17年度水準)をH34年度までに449万トン(H22年度水準)に回復させる)